

東海地域経済懇談会へ参加（2/13）

～田中副会長が三重県連代表として報告～

東海商工会議所連合会、（一社）日本経済団体連合会、（一社）中部経済連合会の共催により、平成31年2月13日（水）『「Society 5.0 for SDGs」の実現に向けて』をテーマに、名古屋観光ホテルにて東海地域経済懇談会が開催され、種橋潤治副会長（四日市商工会議所会頭）、田中彩子副会長（鈴鹿商工会議所会頭）ほか専務理事が参加しました。

懇談会は「テーマ1 活力ある地域づくり」と「テーマ2 産業競争力の強化」について、それぞれ問題提起と意見交換が行われ、三重県連を代表して田中副会長が「道路ネットワーク整備促進とリニア開業への期待」について、以下の通り報告しました。



▲ 東海地域経済懇談会の様子



▲ 代表報告をする田中会頭（右）
左は種橋副会頭

『本年は鈴鹿市をはじめ北勢地域の経済は大きく飛躍できる可能性がある。新名神高速道路の三重県区間の完成、国道23号中勢バイパスの津市から鈴鹿市間の完成により、広域交通ネットワークの強化が図られ、周辺工業団地への企業誘致や災害対応力の向上により、より高い経済活動が期待できる。一方で土地利用の規制が厳しく規制緩和に向けて提言・要望活動を進めてゆきたい。また、リニア中央新幹線は東京・大阪間の全線開業により高い効果を発揮し、亀山市付近への停車駅設置により三重県内経済の振興を図ることができ、東京・大阪間の全線開業と名古屋以西のルート及び駅設置の早期に決定に向けた要望活動に取り組んでいる』と述べました。

経団連からは、交通インフラの整備について発言があり、『特に、リニア中央新幹線についてはスーパーメガリジェーション形成による経済効果、インバウンド効果など大いに期待できる。その効果が発揮されるためには、地方の交通ネットワーク、道路ネットワークの整備、ICT活用によるソフト対策、街づくりなど、行政、企業、住民が地域一体となって取り組んでいくことが必要である』と発言されました。